

事業 009	事業名	新湊ふれあい会館管理運営費				担当部署	部名	市長政策室
	事業名	(新湊地区行政センター運営費)					課名	新湊地区行政センター
事業期間		開始年度	平成 4 年度	終了年度	-	電話	82 - 1963	
総合計画	施策の大綱	第 2 部 だれもがいいきと輝くまち				予算科目	会計	一般会計
	政策名(章)	第 2 章 だれもがきらめくまちづくり					款	総務費
	施策名(節)	第 1 節 生涯学習活動の推進					項	総務管理費
	実施計画掲載	無	個別計画				目	新湊地区行政センター費
根拠法令・要綱等		射水市新湊ふれあい会館条例						

事業目的	対象	施設の利用対象	地域住民				
	意図	施設の設置目的	文化の向上と福祉の増進を図り、コミュニティ活動を推進する。				
事業内容	手段	施設が実施する主な活動	・荒屋東部自治会及び東町東部自治会 ・老人クラブ会合、各種教室(詩吟、体操、交通安全)、獅子舞練習、ギター練習、社交ダンス、納涼大会、講習会等				

補助金事業	類型区分						
	補助内容	補助区分	算出方法(対象経費・基準単価・補助率・上限額等)				

施設管理運営事業	施設名	新湊ふれあい会館			管理形態	市直営	
					指定管理者名		
	構造・階数	鉄骨・2階建			指定管理期間		
	建築年度	平成 4 年度	改修年度	-	類似施設状況	県施設	- 市施設 -
	耐震の有無	有	延床面積	481.77 m ²	民間施設状況	無	
設備・規模	研修室1 31.88m ² 、研修室2 35.92m ² 、研修室3 31.88m ² 、研修室4 35.92m ² 、談話室 37.02m ² 、玄関ホール等 53.24m ² 、ふれあいホール 170.00m ² 、階段ホール等 32.52m ²						

施設等整備事業	総事業費	財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	整備内容						

その他	特記事項等						
-----	-------	--	--	--	--	--	--

事業	009	事務事業名	新湊ふれあい会館管理運営費	担当課	新湊地区行政センター
----	-----	-------	---------------	-----	------------

成果指標	指標名	単位	H23年度実績	H24年度			H25年度目標・見込
				目標・見込	実績	達成率	
成果指標	利用者数 設定できる場合 (施設利用者数)	人	2,835	2,500	2,433	97.3	2,500
活動指標	開館日数	日	83	100	82	82.0	100

		平成23年度決算	平成24年度決算	伸率	平成25年度予算
事業費・人件費	事業コスト				
	直接事業費	1,417 千円	879 千円	38.0	823 千円
	うち臨時職員人件費	千円	千円		千円
	正規職員人件費相当額	408 千円	408 千円	0.0	408 千円
	退職手当引当金相当額	57 千円	57 千円	0.0	57 千円
	事業コスト計	1,882 千円	1,344 千円	28.6	1,288 千円
	財源内訳				
	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
	施 設 使 用 料	190 千円	194 千円	2.1	120 千円
	そ の 他	240 千円	240 千円	0.0	240 千円
一 般 財 源	1,452 千円	910 千円	37.3	928 千円	
当 該 事 務 従 事 職 員 数	正規職員	0.06 人	0.06 人	0.0	0.06 人
	臨時職員	人	人		人
	利用者 1 人 当 たり コ ス ト	0.66 千円	0.55 千円	16.8	
	うち一般財源ベース分	0.51 千円	0.37 千円	27.0	

評価項目	点数	説 明
必要性	2	地域住民のふれあいの場であり、コミュニティ活動の拠点である。
有効性	1	平成4年に竣工した施設で新港西埋立事業に関係した自治会施設であり、1階部分は2自治会が管理費の一部を負担し、2階部分は一般に貸し出している。
達成度	3	利用者の要望に応じて、休日でも開館している。
効率性	1	施設整備の背景から、荒屋東部自治会、東町東部自治会以外の利用は少ない。

評価結果 (1次)	D	施設の統廃合、民営化の検討が必要	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針 (改善内容)			評価委員会のコメント	
地元自治会への移管に向け調整が必要である。				

事業 054	事務 事業名	図書館活動推進費				担当 部署	部名	教育委員会
							課名	生涯学習・スポーツ課(図書館)
						予 算 科 目	電話	57 - 4646
事業 期間	開始 年度	平成 17 年度	終了 年度	-	会計		一般会計	
総合 計画	施策の 大綱	第 2 部 だれもがいきいきと輝くまち					款	教育費
	政策名 (章)	第 2 章 だれもがきらめくまちづくり					項	社会教育費
	施策名 (節)	第 1 節 生涯学習活動の推進					目	図書館費
	実施計画 掲載	有	17 頁	個別計画	子どもの読書生活充実プラン			
根拠法令・要綱等		図書館法						

事業 目的	対象 誰を・何を	全市民、市内在勤者・在学者					
	意図 どのような 状態に	利用者要望に適応した資料整備及び郷土資料、専門資料の収集・整理保存					
事業 内容	手段 どのような 方法で	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な図書資料を計画的に選書、購入をはかり、市民の財産として保管、保存するとともに市民の利用に供する。 ・収集した図書資料の利活用を図るため各種講座を開催し生涯学習支援を行う。 ・国会図書館及び東海北陸地区県立・指定都市立図書館資料相互貸借協定による相互貸借を活用する。 ・市広報誌の図書館コーナーや図書館ホームページの中での情報提供を行う。 					

補助 金 事業	類 型 区 分						
	補 助 内 容	補助区分	算出方法 (対象経費・基準単価・補助率・上限額等)				

施設 管理 運 営 事 業	施 設 名					管 理 形 態		
						指 定 管 理 者 名		
	構 造 ・ 階 数					指 定 管 理 期 間		
	建 築 年 度	改 修 年 度				類 似 施 設 状 況		
	耐 震 の 有 無	延 床 面 積				民 間 施 設 状 況		
設 備 ・ 規 模								

施設 等 整 備 事 業	総 事 業 費	財源内訳 (千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	整 備 内 容						

そ の 他	特 記 事 項 等	<p>中央図書館以外の地域館については正規職員が館長代理1名体制であり、正規職員不在時の対応が必然的に必要となる。 臨時職員：中央8名、新湊5名、正力4名、大島4名、下村8名(清掃含む)。 臨時職員賃金は図書館管理運営費で支出。</p>
-------------	-----------------------	--

事業	054	事務事業名	図書館活動推進費	担当課	生涯学習・スポーツ課(図書館)
----	-----	-------	----------	-----	-----------------

成果指標	指標名	単位	H23年度実績	H24年度			H25年度目標・見込
				目標・見込	実績	達成率	
成果指標	利用者数 設定できる場合 (貸出人数)	人	133,245	133,245	129,460	97.2	130,000
	図書館行事参加者数	人	3,927	3,927	3,910	99.6	3,910
	貸出冊数	冊	542,820	542,820	527,533	97.2	530,000
活動指標	蔵書数	冊	398,630	408,000	400,921	98.3	410,000
	貸出用図書購入冊数	冊	9,490	10,000	9,821	98.2	10,000
	ボランティアグループ登録団体数	団体	5	5	5	100.0	6

		平成23年度決算	平成24年度決算	伸率	平成25年度予算
事業費・人件費	直接事業費	7,317 千円	17,409 千円	137.9	17,322 千円
	うち臨時職員人件費	0 千円	0 千円	-	0 千円
	正規職員人件費相当額	35,224 千円	47,124 千円	33.8	41,548 千円
	退職手当引当金相当額	4,921 千円	6,584 千円	33.8	5,805 千円
	事業コスト計	47,462 千円	71,117 千円	49.8	64,675 千円
	財源内訳				
	国 県 支 出 金	0 千円	0 千円	-	0 千円
	そ の 他	0 千円	70 千円	皆増	0 千円
	一 般 財 源	47,462 千円	71,047 千円	49.7	64,675 千円
	当 該 事 務 従 事 職 員 数				
正規職員	5.18 人	6.93 人	33.8	6.11 人	
臨時職員	0.00 人	0.00 人	-	0.00 人	
利用者1人当たりコスト	0.36 千円	0.55 千円	54.2		
うち一般財源ベース分	0.36 千円	0.55 千円	54.1		

評価項目	点数	説 明
必要性	3	市民ニーズに対応することはもとより、地域に密着した市民施設として郷土資料や専門書の収集・保管にも努め、様々な情報提供を行うことにより、市民の生涯学習の推進に重要な役割を担う。
有効性	4	個人では入手できない規模の資料を共同利用し、幼児から高齢者まで幅広く多くの方が読書を行い、また、調査研究・学習の場として利用している。
達成度	3	インターネット等の情報端末の進化により、一部の貸出しについては減少していると推測されるが、引続き計画的な図書購入を図り、良質な蔵書を保管、提供することに努めたい。
効率性	4	図書館相互貸借、インターネット予約、市内5館のネットワークシステムにより、限られた予算での蔵書を効率よく活用している。

評価結果 (1次)	A 現行(計画)どおり事業を進めることが適当	評価結果 (2次)	B 事業の進め方の改善が必要
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)		評価委員会のコメント	
<p>地域に密着した生涯学習施設として引続き運営を行うが、利用者数、狭あい性(正力・大島)、施設の老朽化を考慮し、今後の在り方について検討する。</p>		<p>文部科学省の「目指すべき目標値」を上回るよう、登録者数を増加させる方策を講じられたい。 また、本市の厳しい財政事情や今後の人口減少を十分踏まえ、図書館機能の集約や民間活力の導入も含めた運営体制などについて、あらゆる角度から検討・検証し、本市の図書館のあるべき姿、将来像を早急に示されたい。</p>	